

ももたろう基金～「平成30年7月豪雨災害支援基金」～

第8次(災害支援・復興)助成金申請書

【団体情報に関すること】

※本用紙に記載の個人情報は、本事業の実施にのみ使用します。

ふりがな	にしにほんごうすいがい「たいせつなもの」むしょうおうきゅうしよち できることをできるだけちむ		
団体名称	西日本豪雨災害「大切なもの」無償応急処置 出来る事を出来るだけチーム		
代表者職名	代表・修復士	ふりがな	さいとう ゆうこ
		代表者氏名	齋藤 裕子 (印)
ふりがな	おかやまけん おかやまし なかく		
団体住所	岡山県岡山市中区		
電話番号		F A X	
設立年もしくは活動年数	2019年7月		
スタッフ数	有給スタッフ_____名・無報酬スタッフ_____8名・ボランティア等_____名		
団体HP(あれば)			
FBページ(あれば)	西日本豪雨災害『大切なもの』無償応急処置、出来る事を出来るだけチーム		
CANPAN登録	なし・あり(星 っ)【団体ID: 今後登録予定】		

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

担当者役職名(必須)	代表	ふりがな	さいとう ゆうこ
		担当者氏名	齋藤 裕子
郵送物送付先住所	岡山県岡山市中区		
担当者電話番号 (極力携帯番号)		担当者 e-Mail	

(事務局記入欄)

事務局記入欄 受付日・受付者		事務局記入欄 CANPAN登録	有・なし(予定 月 日頃)
-------------------	--	--------------------	---------------

に!!!)

2、より多くの対象物を殺菌するため、環境・人体・対象物に優しい「燻蒸」方法を見つけ実施する。

3、水損被災物の応急処置方法、保存方法のワークショップを現地で行う。 (4月中旬 1週間 「まびくら」にて)

* 昨年岡山市内で行った活動報告展「一枚のはがき」&ワークショップ(写真洗浄・日記帳の綴り直し・被災写真のデジタルデータ化)をブラッシュアップし現地開催する。

▶被災者様に当活動を知っていただき対象物を一点でも増やす機会&被災者様同士が集まる機会を作ることを目的に

事業の実施体制

・事業実施にあたり、自団体の取り組みメンバーや連携先の団体など

■当活動メンバー(8名)

絵画修復士 2名: 応急処置作業員として

表具師 1名: 応急処置作業員として

古書修復・装丁家 1名: 応急処置作業員として

アーティスト 2名: 応急処置作業員、ワークショップ、展示企画員として

デザイナー・アートディレクター 2名: 被災写真デジタルデータ化作業、ワークショップ、展示企画員として

連携先団体様

●まびくら:「まびに ぐらしの めくもりを回復すること」を目的とし、岡山キリスト災害支援室とYMCAせとうちと日本基督教団東中国教区とが連携した団体。

事業実施後の展望

・助成期間後も活動を継続す場合はその内容や展望

・助成期間をもって事業終了の場合は、その後の支援対象者の状況

■助成期間(4月~7月予定)をもって事業終了予定。

■その後の支援対象者の状況:

被災家屋の公費解体の申請期限が3月末までである。

当活動としては、この公費解体申請リミットが、被災者様が「大切なもの」取捨を選択する大きなリミットでもあるのではないかと考える。あわせて、夏を迎える前までが黴の再発生を抑制するリミットでもある。その為、当活動の助成実施期間は近々かつ短期間かもしれないが、迅速に以下のスケジュールで行い一点でも多く「大切なもの」を残す。

●2月17日「まび新春祭り」に参加し相談ブースを設け、まだ汚損した「大切なものはまだ捨てないでよい」という意識と希望を持っていただく。

●他ボランティア団体等に3月からの活動予定チラシを配布し被災者様への告知

↓【助成活動】

●4月から7月:真備で被災者様と洗浄殺菌作業&ワークショップ、保存箱を贈る

その他

・その他事業実施にあたり、特に必要なことやPR

別紙にて

※この用紙に収まらない場合は、別紙企画書など添付ください。ただし、概要についてはこのページ1枚にまとめてください。